

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970103129		
法人名	医療法人 健和会		
事業所名	グループホームふれあい東九条		
所在地	奈良市東九条町886-1		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成24年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは鉄筋コンクリート平屋建てで殺風景な作りになっているので、館内の飾り付けや、館の周囲の花壇や植木には気を配り、季節感の出るよう工夫しています。開所後6年半を経過していますが、当初から毎月来て下さっているボランティアさんがおられ、現在では月平均5組のボランティアさんが歌や踊り、尺八などと楽しい時間を提供して下さっています。また入居していただいたときに個人アルバムを作成します。スナップ写真やお誕生日の記念写真など楽しい思い出を記録しています。新しい写真を入れる際、以前の写真を見ながらお話が盛り上がりが、とても楽しく、笑ったり、おなかを抱えたりしながら喜んでもらっています。最近では都南地域のグループホーム4施設が合同で花見や演芸会を開催しています。職員同士の交流も徐々に輪が広がっていきげばと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、古い町並みの外れにあり、周りには田畑も残っている。建物は鉄筋平屋の2ユニットのグループホームで、道路に面して駐車場がある。事業所内は、大きな窓があつて明るく、共有空間は広くゆったりとしている。毎月多くの地域ボランティアが訪れ、利用者の楽しみになっている。食事は、利用者の要望も聴きながら、すべて手作りでつくられている。職員は、利用者個々をよく理解し、穏やかな対応で、ゆっくりとした時間が流れている。ふれあいの心を大切に、利用者や地域の方々と共に、よりよい地域福祉の実現に寄与すること目標としている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念でもある「人との温かいふれあいの心」を事業所の理念とし、地域とのつながりやホーム内でのふれあいを大切にしている。	ふれあいの心を大切に、利用者や地域の方々と共に、よりよい地域福祉の実現に寄与することを理念としている。理念を毎朝職員が朝礼で唱和し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し職員は自治会清掃に参加し、入居者さんとともにホーム前の歩道の清掃をしながら行き交う地域の方と交流を持つようにしている。ボランティアさんや中学生、ご近所の方の訪問もある。	自治会に加入し、利用者と共に清掃活動に参加している。地域の秋祭りの山車も前を通ってもらい、利用者の楽しみの一つになっている。地域のボランティアの訪問も多く、中学生の地域交流学習による訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方、地域の方からの相談にアドバイスしている。認知症家族の会などの主催される研修会のポスターなどを貼りだし家族さんに参加を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開催し、情報は施設運営に反映させ、サービス向上に活かしている。。	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表などが参加し、情報交換をしている。自治会長の参加がまだ得られていない。	より地域との交流を深めるためにも、運営推進会議に自治会長や自治会役員などの参加をしてもらえるよう、引き続き粘り強い働きかけが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営会議の報告や東九条だよりを郵送しているほか、必要時電話や直接会うなど問題解決を図っている。市主催の研修、説明会には必ず出席している。	運営推進会議の議事録や「東九条だより」を郵送している。市主催の研修会や説明会に参加し、情報を共有している。その他、分からないことをその都度、電話で相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本にしている。職員が手薄な時間、特に夕食後は玄関を施錠している。	玄関は、玄関の鍵はかけられていない。玄関と反対側にある勝手口も中から開けて出ることができる。法人内で身「体拘束をしないケア」の実践に向けて研修し、言葉による拘束もないように気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会にテーマの1つとして学び共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	Nネット通信をファイルして学び必要時活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書などを用いて十分説明を行い、納得して頂き契約してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。玄関の下駄箱の上にファイリングした運営推進会議録や事業計画などを設置している。運営推進会議の際の意見・提案は大切に、運営に反映している。	面会時や事業所の行事日などで家族と顔を合わせ、意見を聴いている。運営推進会議でも積極的に思いを述べて頂いている。また、ケアプラン説明時には、個別に意見や思いを聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換、提案などを聞き、日々の業務に反映している。	日々の活動の中で、職員が気がついたことや要望はすぐに代表者に伝えている。大事なことは、月1回の職員会議で提案し、話し合うことにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に沿っている。ステップアップ研修への参加やキャリアパス制度の活用により、やりがい・向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修受講を呼びかけ、法人の研修は勤務扱いで参加してもらっている。事業所としても毎月勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都南地区の4施設が合同花見会や演芸会を開催し、職員はもちろん、入居者さん同士の交流を図っている。地域包括支援センター主催の歌声ひろばにも参加、地域の方と交流する機会にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時から、時間をかけコミュニケーションを図り、できる限り、本人のホーム見学を実施している。入居後はホームの生活に早くなれていただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんは色々な情報を持っておられ心配される方が多いので面会や面会時間の自由等告げ、その都度ゆっくりと相談に乗るようつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問理容、訪問歯科、往診など必要に応じて利用できる事を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事はして頂く、お互いに助け合っている。手伝っていただいたときは感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はお部屋でゆっくりお茶など飲んで頂いたり、イベントと一緒に参加して楽しんでもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達やお知り合いなど面会簿に記入後、自由に面会して頂いている。またドライブ時には学校や自宅、市役所など紹介し懐かしんでもらっている。	面会は、家族だけでなく知人の訪問もある。市内の人は、ドライブの時に家の近所に行ったり、奈良の古くからの行事を見に行ったりしている。家族との外出や外泊をする人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉の行き違いからトラブルになる事があるが早めに対処し丸く収まるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いや、面会など機会を作っている。またお写真を届けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ希望に添えるようにしているが、他者への影響を配慮し、規則正しい生活リズムになるように支援している。	日々の活動の中で、着るものや食べたいもの、お風呂の順番、外出希望など、個々の利用者の思いや要望を聴いている。	アセスメント様式を工夫し、ADLだけでなく、本人の生活歴や趣味特技、好き嫌い、生き甲斐などを積極的に聴いて記録することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんや入居者さんからお話を聞き、情報を共有できるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化や食欲など常に把握し、必要時バイタルサインの測定や、臥床してもらうなどその時々で判断している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント表から課題を出し、ケアのあり方をケアプランの案として家族さんの同意を得ている。	カンファレンスを行い、職員で意見を出し合って課題を分析し、介護計画が立てられている。2週間分のチェック表を評価し、3ヶ月に1回見直しをし、家族にも説明している。	介護計画は問題点からのアプローチだけでなく、本人の趣味特技、生き甲斐など生活歴を活かしたプラス面からのアプローチも望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は経過記録にその都度記録し、難題発生時はミーティングを行い、3ヶ月ごとにケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族さんが忙しくて、衣類やオムツ類の購入ができない場合は職員が代行するなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや他のグループホームの行事、に参加させて頂き、心身の力を発揮しながら楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族さんの希望を大切にしている。協力医院の定期往診に変更もできる事を説明している。インフルエンザ予防接種も協力医院にお願いしている。	事業所のかかりつけ医による往診が、2週間に1回ある。入居以前から受診している病院に通う方もいる。年に1回健康診断を、同じ法人の病院で家族同伴のもと実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	責任者が看護師も兼任しているので医療連携体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師・ケースワーカー・家族さんと情報交換をしながら早く退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りマニュアルを作成している。家族さんと話し合いをしながら、かかりつけ医・訪問看護などのサービスを利用しながら、ホームでの看取りができた場合もあるが現在の体制では非常に困難と思っている。	看取りマニュアルが作成され、事業所での看取りの事例もある。重度化した場合、入院を希望する家族が多い。法人内での研修も行われているが、現在は2ユニットで一人の夜勤者で、対応に難しい面もある。	利用者や家族から事業所内での看取りの希望が出たとき、それに対応できる体制づくりが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。AEDなど随時勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成している。避難・消火・通報訓練など定期的に行っている。スプリンクラーも設置し、年2回の消防設備点検を業者に依頼している。	スプリンクラーや火災通報装置が設置されている。災害時マニュアルが作られ、年2回避難訓練が実施されている。内1回夜間想定訓練も行われている。地域の自警団との話し合いを模索中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の接遇マニュアルにそって教育している。	事務所に職員倫理が掲示され、人格の尊重やプライバシーの確保について、共有している。また、法人内で研修会も行われている。トイレ誘導の声かけや衣服の着方など、尊厳を傷つけないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にし、できるだけ自立支援を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要はせず、個人のペースを大切にし、見守り支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や重ね着の仕方など鏡を見ながらなにげに支援している。訪問理容さんはオープン当初から同じ方をお願いしているので顔なじみでゆっくり希望を聞きながら関わって頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ・盛りつけ・食器洗い・食器拭きなど役割分担を決め、見守りしながらできる事してもらっている。季節の物や各地域のおいしい物など提供してふるさとを懐かしんでもらっている。	食事は、利用者の要望も聴き、食材を調達し職員の手作りで行われている。野菜を多くとれるように配慮している。食事の準備や後片付けをできる範囲で、手伝ってもらっている。また、誕生日会をしたり、みんなで外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を作成し、軟らかく、食べやすい大きさにするなどすべて食べて頂けるよう工夫している。食事や飲水量のチェックを行っている。食事量の少ない方は別表に細かく記入するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは定着してきたが、病状によりケアの大変な方もおられる。その方に応じた方法で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、個人に合わせた排泄介助をしている。	排泄表をつけて、個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導をして、なるべくおむつをつけないケアを心がけている。排泄が自立している人も、排泄の有無に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動不足になりがちのため、飲水量チェックや食材の工夫・毎朝のラジオ体操・ビデオ体操・館外周の散歩・隣の棟などへの廊下歩行など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員配置の都合上、曜日・時間帯を決めている。その中で仲よし同士の入浴や順番などは選択してもらっている。	お風呂場は、洗い場も広くゆったりとしている。ユニットごとに交互に週3回、午後に入れるようにしている。しょうぶ湯やゆず湯など季節感のあるお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	館内は自由にしてもらっている。隣の棟のソファでリラックスしたり、ベッドで休まれたりされる事もある。安眠して頂くためには外気浴や戸外の散歩を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬の説明書や受診記録を熟知し、個々の方に応じた服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵・ペーパーフラワー・指編み座布団・コットン細工などできあがる楽しみや仕上げようと張り合いもあり、気分転換にもなるので少しずつ毎日のように行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画に基づいて、外食・ドライブ・花見など家族さんの協力をえながら支援している。今年は全員参加でサーカスを見物した。また天気の良い日には館周囲の散歩は自由してもらい、職員の連携や、モニター画面で安全を確認している。	天気の良い日は、近くの神社や建物の周りを散歩したり、ベンチで外気浴をしている。雨の日や寒い日は、事業所の建物内を端から端まで歩くようにしている。車で交代でドライブに出ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	依頼された物を購入し、レシート表示の代金を頂いたり、自動販売機のジュース購入の支援などしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方は自由に掛けてもらっている。携帯電話を使用されていた方がおられたが、間違い電話が多くなり苦情も発生したため相談の上、解約して頂いたケースもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度の管理や換気・清掃などにも力を入れている。リビングや廊下・居室・館周囲の垣根や花壇の季節感も気を配り、居心地良く生活できるように工夫している。	居間兼食堂は、テーブル席とソファがあり、比較的広くてゆったりとしている。大きな窓があつてとても明るく、外の景色が見え開放的である。ピアノが置いてあり、季節感のある花や装飾品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞を読んだり、内玄関の椅子で外を眺めたり、外のベンチでお話をしたり、また居室で友達同士過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や小物類は使い慣れたもの、なじみのものなど持ち込みは自由に行っている。危険のリスクも考慮し、設置は検討させて頂く物もある。	居室の入口には、手作りの表札がある。居室には洗面台があり、造花が美しく飾られている。ベッドや椅子、タンス、テレビなどが持ち込まれ、個性的な空間がつくられている。ボランティアによって作られた季節感のある色紙も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりにくい事もあり、トイレ内やトイレ前の点灯し明るくしたり、必要に応じて室内の物音が聞こえるようにコールのスイッチを入れたり工夫している。		